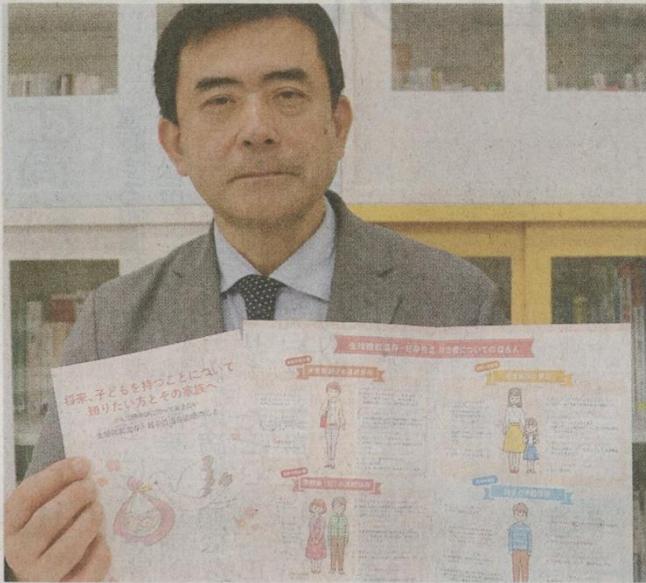


## 岡山大病院センター パンフ作成

# がん患者 子どもも持てる

### 卵子や精子凍結保存 生殖機能温存も



生殖機能の温存について解説したパンフレットと中塚教授

がん治療と妊娠について解説したパンフレットを、岡山大病院リプロダクションセンター(岡山市北区鹿田町)な

どが作成した。患者を温存できる可能性があることを紹介。同センターは「正しい知識で悔いなく治療を受けてほしい」と呼び掛ける。

抗がん剤や放射線により、卵巣や精巣といった生殖に関わる臓器がダメージを受けて機能が低下したり、失われたりする場合があります。近年は生殖医療技術の発達で、卵子や精子をはじめ、受精卵や卵巣の一部を凍結保存して機能を残す選択が可能になったが、「十分に周知できていないのが現状。治療を受けてから、子どもを諦めざるを得ないと後悔する患者さんもある」(同センター)という。

題したパンフレットは、A5判6ページ。女性も男性は精子について、それぞれ凍結保存の方法や自己負担額、リスクなどを説明したほか、相談窓口を掲載している。生殖医療の実施医療機関が探せるウェブサイトも案内した。

センター長の中塚幹也・岡山大学院教授は「全員が対象となるわけではないが、少しでも多くの患者さんが生殖機能の温存について知るきっかけになれば。がん治療に関わる医師や看護師らにもあらためて理解し

てほしい」と話している。パンフレットは1万部作り、県内の医療機関で配布しているほか、「がんと生殖医療ネットワークOKAYAMA」のサイトなどでダウンロードできる。

(山本恭子)